



# 桜が輝く瞬間を撮る！

文・写真 || 鉄道写真家 中井精也

## 【表紙写真】

宮城県にある「一目千本桜」と列車。ここは日本有数の桜の名所ですが、撮りたかったのは桜のある日常風景。青春時代、こんなすてきな放課後、過ごしたかったな(笑)

(2013.4.16/東北本線 大河原～船岡)

待ちに待った桜のシーズンが近づいてきました。鉄道写真家にとって桜の季節は名作をモノにできるチャンスでもあります。「せっかく桜が満開なんだから、ちゃんと撮らなくちゃもったいない!」とばかりに、ついつい定番カットばかりを量産してしまいがち。でもこんな時こそ自分が何に感動したのか、そして写真を通して何を伝えたいのかをしっかりと意識して、他の人がどんな写真を撮っているかを気にすることなく、自分ならではの目線で、鉄道と桜を撮るようにしたいところです。

今回は桜の定番スポットをご紹介します。ただでなく、作品をお見せしながら、僕がどのような意図で作品作りをしているかを解説してみたいと思います。ぜひ今年の桜の撮影の参考にしたいだけだと思います。

## 列車の明かりが照らす夜桜

上の作品は、群馬県を走るわたらせ渓谷鉄道で撮影したものです。大間々駅と上神梅駅の間にあるこの場所

は、線路の両側が桜並木になっており、4月上旬に桜が満開になると多くのカメラマンでにぎわいます。撮影地では訪ねた時間帯の光線で撮影するしかありませんが、「他の時間帯だったらどんな光線だろう?」という感じで、想像してみることも大切です。僕はあるイメージがピッと頭に浮かび、誰もいない真つ暗な夜に訪ねてみました。夜に撮影するのはライトアップされた桜が中心ですが、観光地ではないこの場所がライトアップされるはずもありません。桜並木の近くには街灯がいくつかあり、わずかに桜を照らしていますが、それ以外はほぼ真つ暗。ならば、列車のライトに照らし出してもらおうと思いついたのです。

AE(オート露出)だと、列車のライトの影響を受けて露出アンダー(シャッタースピードと絞りの組み合わせを間違えたために写真が暗くなること)になってしまうので、勘で露出を決めてマニュアルモードで露出を固定。列車が来る前は、左上の写真のようにほぼ真つ暗な状態なので不安になりますが、列車が

列車のライトが夜桜を照らし出す。刻々と変化するショータイムをご覧ください!  
(2021.3.31/わたらせ渓谷鉄道 大間々～上神梅)



